目利きが選ぶ今週の3冊

瀬名秀明
作家

求む、有能でないひと
G・K・チェスタトン著

☆☆☆☆

錯覚の世界　古典からCG画像まで
ジャック・ニニオ著

白黒の図が多く一見地味な印象の本だが、実際はかなりすごい錯視画像の連続。何度か驚いて声を上げてしまった。最新CGになるほど衝撃的。鈴木光太郎・向井智子訳
（新曜社・3800円）

☆☆☆

研究者人生双六講義
入來篤史著

合間に挟まれる「はい、質問!!」が、双六の鳥羽口に立つ若手の真摯な気持ちを代弁している。自分ならどう答えるか？研究者人生の節目ごとに読み返すと効果的かも。
（岩波書店・1100円）

☆☆

井上章一
国際日本文化研究センター教授

聖徳太子はいなかった
谷沢永一著

聖徳太子神話をダシにしながら、さまざまな論者のたなおろしがなされている。学者のミシュランが痛快だ。「党」の理解をはじめ、読みごたえのある情報が満載。
（新潮新書・ 700円）

☆☆☆

機動戦士ガンダムTHE ORIGIN 6
安彦良和著

中年になってマンガを読まなくなった私だが、安彦はべつ。いまでも、ガンダムには熱くなる。アルテイシアとランバ・ラルの再会には四半世紀ぶりの感動をもらった。
（角川書店・ 580円）

☆☆☆

戦争が遺したもの
鶴見俊輔、上野千鶴子
小熊英二著

☆☆☆☆

北上次郎
文芸評論家

幽霊人命救助隊
高野和明著

自殺した４人組が 100人の命を救うことを神様に命令されて再度下界に戻ってくる話で、その軽妙な味つけが効いている。この著者の幅の広さを示す佳作。
（文芸春秋・1600円）

☆☆☆

ウェルカム・ホーム！
鷺沢萌著

☆☆☆☆

ボーイズ・ビー
桂望実著

小学生の男の子と、靴職人の老人の、あたたかくも不思議な交流を描くヤングアダルト小説で、オーソドックスながらもその丁寧な筆致を買う。次作に期待。
（小学館・1300円）

☆☆☆

2004年5月6日
日本経済新聞

戦争が遺したもの

好奇心そそる思想家裏話

私はゴシップが好きだ。誰それはあんなことを書いているけど、ほんとうはこんな人らしい。とまあそんな話を聞くと、うれしくなる。

好きな著述家のことは、その人となりまで知りたいと思う。また、えらそうな書き手の背後に、みみっちい処世術をかぎあて、わらいのめしたいという気持ちもなくはない。とにかく、読書人としては、ややすれっからしになっている。

鶴見俊輔の語りは、そんな私の好奇心を大いにみたしてくれた。たとえば、丸山真男、吉本隆明、高見順らの意外な一面が、ここにはしめされている。鶴見は、桑原武夫のことをゴシップの収蔵庫だという。しかし、なかなかどうして、御当人じしんもそうとうなものだ。稗史（はいし）の愛好家には、一読をすすめたい。

とはいえ、その語りは戦後思想史の枠組にそって、すすめられている。素朴なゴシップ好きには、その点がかったるい。鶴見の闊達な語り口じたいは、『同時代を生きる』（岩波新書）のほうがたのしめる。

「ヤクザの仁義」には、ただ脱帽。誰ともそういう連帯感がわかちあえない自分の矮小さを、思い知らされた。（新曜社・二、八〇〇円）